

日本昔話に出てくることばの認知度について

— 保育科学生のアンケート調査の分析を中心に—

皆川 晶

On the knowledge of words used in the old stories in Japan
—Focusing on the research of questionnaire concerning nursery
department students—

Aki Minagawa

Abstract

Children's language is formed by daily conversation, picture-book, fairy tales. Though picture-books or fairy tales become a major means of learning language, additionally, they offer a chance of knowing the words concerning clothing, food and housing. This article focuses on 「words」 often used in the old story. Nursery teachers understand them and convey them to the children because we see that in the story the words not used in our daily life. Therefore, I will research the knowledge on old stories of the students aiming at the nursery education, and the knowledge of the words used in the story.

Keywords : Japan old fairy tale, inherit, culture, language understanding

1. はじめに

昔話は長い間、人々によって語り継がれてきた。いつ誰がつくり、語られてきたかはわからない。しかし、時代が変わっても親から子へ、子から孫へと語り継がれ、今でも多く読まれている。長い間語り継がれてきた中で、おもしろくないところは忘れられ、人の心を打つところが残ってきた。昔話について、稲田は「民間の人々が生活の中で伝えてきたもので、語り手が聞き手に語るという口頭伝承（口承）を基本的な伝承の様式として持つ、一定の型を備えた散文の物語」¹⁾と説明している。「民間の人々が生活の中で伝えてきた」からこそ、そのお話の中には、人々の考え方、知恵、生活に密着した文化が詰まっている。昔話がつくられたころと現代では、人々の生活や文化、衣食住も変わってきている。よって、昔の人がどのような道具を使い、どのような暮らしをしていたかが今の私たちにはわかりづらくなっている。だからこそ、それを十分に理解して子どもたちに継承していかなければならない。

さらに、昔話には口調や言葉など現代とは違う表現や私たちの身近にない文化などが登場してくる。語り継ぐ大人・保育者は、それらの違いを知識として身につけておく必要がある。知識として身につけたうえで、子どもの好奇心や想像力を刺激し、子どもの疑問などに丁寧に対応しながらお話を提供していくことが大切である。昔話を読み聞かせすることは「現実には自分の生活している世界しか知らない幼児にとって、様々なことを想像する楽しみと出会うことになる」²⁾。だからこそ、昔話に出てくる子どもにとって身近ではないことばや文化を知ってもらいきっかけとするために、保育者は自身がその知識をもったうえで読み聞かせを実践しなければならない。

本稿では、昔話を語り継ぐにあたり、保育者を目指す保育科学生が昔話に出てくることばや文化の違いを認識し、子どもに説明できるのかを検証するものである。また、この調査結果から学生の現状を踏まえ、保育者養成に対する指導のあり方を探る手立てとしたい。

2. 方法

調査時期及び調査対象については以下のとおりであり、質問紙調査を行った。

時期 : 2021年4月

対象者 : 「幼児と言葉」を受講する本学保育科1年生50名(調査日に欠席をした学生を除く。回収率100%)

3. 調査結果と考察

① 読み聞かせの有無について

学生自身の子どものころの読み聞かせに関する調査を行った。家族に読み聞かせをしてもらっていたのは74%(表1)、絵本を読んでもらうのが好きだったのは84%(表2)、保育園や幼稚園のころに好きな絵本があったのは62%(表3)、保育園や幼稚園のころに自分で絵本を読んでいたのは54%(表4)であり、子どものころは絵本に多く触れていたことがわかった。

表1 家族から絵本の読み聞かせの有無

してもらった	してもらっていない	覚えていない
37名(74%)	6名(12%)	7名(14%)

表2 絵本を読んでもらうこと

好き	嫌い	覚えていない
42名(84%)	2名(4%)	6名(12%)

表3 保育園や幼稚園のころ、好きな絵本の有無

あった	なかった	覚えていない
-----	------	--------

31名 (62%)	1名 (2%)	18名 (36%)
-----------	---------	-----------

表4 保育園や幼稚園のころ、自分で絵本を読むこと

読んでいた	読まなかった	覚えていない
27名 (54%)	6名 (12%)	17名 (34%)

② 昔話の継承について

保育者を目指す学生として、保育者の立場から、子どもに読んであげたい昔話を尋ねる(表5)と、『桃太郎』が一番多く、「協力することの大切さ」「おもしろい」「内容が理解しやすい」からという理由であった。他作品では、「良い行いをすると良いことが、悪い行いをすると悪いことがかえってくる」といった、ものの善悪を伝えたい、「諦めない大切さ」を伝えたいという理由が多くあった。昔話を通して「人生訓」や「人間の心」を伝えたい、学んでほしいという気持ちであると考えられる。

昔話を子どもに語り継ぐことについては、無回答者2名を除く全学生が大切であると答えた(表6)。昔話から暮らしや文化、教訓などを学び、楽しみながら表現力や想像力を身につけてほしいという願いが見られる。そこに昔話を継承する意義があるととらえていることがわかった。

表5 子どもに読んであげたい昔話

題名	人数	理由 (人数)
桃太郎	15名	協力して何かをなすことの大切さを知ってほしいから (4)
		おもしろいから (3)
		自分も読んでもらっていたから (2)
		内容が理解しやすい。動物も認識できるから (2)
		今でもはっきりと覚えている話だから (1)
		楽しいから (1)
		楽しく想像しながら聞くことができるから (1)
浦島太郎	5名	いじめられていたら、注意をするという気持ちを持つことはよいと考えるため (1)
		いじめを守ってあげたらいいことがあるって教えることができると思うから (1)
		良いことをすると良いことが返ってくるから。親切なことができる子どもになってほしいから (1)

		優しさを感じてほしい (1)
		だめと言われたことをしてはいけないと教える (1)
花咲かじいさん	2名	良いことと悪いことの区別を伝えられるし、おもしろいから (1)
		良い行いをすると良いことが、悪い行いをすると悪いことがかえってくるということを伝えられるから (1)
さるかに合戦	2名	善悪がわかりやすいから (1)
		悪いことをしたら絶対にあとから返ってくるということを知ってほしいから (1)
かさじぞう	1名	何でも大切にすることは大事だから (1)
わらしべ長者	1名	ストーリーが好きだから (1)
おむすびころりん	1名	おむすびが転がる場所で、楽しく子どもと一緒に読めると思うから (1)
豆つぶころころ	1名	悪いことをするとよくないと、おもしろおかしく教えてくれるから (1)
うさぎとかめ	1名	最後まで諦めない大切さを伝えることができるから (1)
3匹のこぶた	1名	小さい頃によく読んだから (1)
赤ずきん	1名	人にしたら自分にかえってくることを伝えて、人に優しくできるようになると思う (1)

※ 理由は自由記述のため、言葉や表現はそのまま記載した。また、それぞれ書かれた言葉が違っていても、内容がほとんど変わらないものは、同じ理由のところに含めた。表6も同様。

表6 昔話を子どもに語り継ぐこと

継承	人数 (%)	理由 (人数)
大切である	48名 (96%)	昔の暮らし、文化などを知ることができるから (10)
		昔話はおもしろい、楽しいから (8)
		教訓や学ぶことが多くある (7)
		伝統を受け継ぐのは大事 (6)
		表現力、想像力が身につく (3)
		昔話ならではのよさ、あたたかみがある (2)
		昔話はわかりやすい、理解しやすい (2)
		言葉を知ることができるから (2)
		昔話を知ってほしいから (2)
		絵があってわかりやすい (2)

大切ではない	0名	
無回答	2名(4%)	

※ 理由は自由記述のため、無記入者もいた。

③ 昔話の認知度について

調査①②を踏まえて、保育者を目指す学生が日本昔話をどの程度知っているかを尋ねた(表7)。「お話の内容を知っている」と半数以上が答えた作品は、『桃太郎』が88%で一番多く、『浦島太郎』が70%、『鶴の恩返し』が64%、『かぐや姫』が54%、『花咲かじいさん』が50%の認知度であった。「お話の内容を知っている」と一番多く答えた学生は16作品であった。10作品以上を知っている学生は7名であった。「お話の内容を知っている」作品が全くない学生は4名おり、その中の1名は「お話の内容をまったく知らない」が15作品であった。他の3名も「作品名を知らない」が4~5作品で、他の作品は「なんとなく知っている」「まったく知らない」と答えた。「作品名を知らない」のは、『分福茶釜』が74%で一番多く、『かもとりごんべえ』が70%、『三枚のおふだ』が60%、『力太郎』が54%、『ねずみのすもう』が50%で、半数以上の学生が作品名も知らない昔話が5作品あった。

表7 日本昔話の認知

(人数)

	作品名	お話の内容を知っている	お話の内容を大体(主要な部分は)知っている	お話の内容を(正確にはわからないが)なんとなく知っている	お話の内容をまったく知らない	作品名を知らない	無回答
1	一寸法師	8	10	<u>28</u>	4	0	0
2	浦島太郎	<u>35</u>	8	7	0	0	0
3	おむすびころりん	<u>22</u>	16	10	2	0	0
4	かぐや姫	<u>27</u>	6	15	2	0	0
5	かさじぞう	14	10	<u>19</u>	7	0	0
6	かちかち山	7	<u>15</u>	<u>15</u>	10	3	0
7	かもとりごんべえ	0	1	4	9	<u>35</u>	1
8	金太郎	12	12	<u>16</u>	8	1	1
9	さるかに合戦	<u>22</u>	10	13	4	1	0
10	三年ねたろう	4	1	11	11	<u>23</u>	0
11	三枚のおふだ	4	4	2	9	<u>30</u>	1
12	舌きりすずめ	9	10	9	<u>14</u>	8	0
13	力太郎	0	2	7	14	<u>27</u>	0

14	鶴の恩返し	<u>32</u>	11	4	3	0	0
15	ねずみのすもう	3	2	4	15	<u>25</u>	1
16	ねずみのよめいり	2	1	4	<u>27</u>	15	1
17	花咲かじいさん	<u>25</u>	13	10	2	0	0
18	分福茶釜	1	1	4	5	<u>37</u>	2
19	桃太郎	<u>44</u>	3	2	1	0	0
20	わらしべ長者	3	4	5	17	<u>21</u>	0

※ 1作品に対して回答するのは1か所のみとした。

※ 各作品の回答数の一番多い項目の数値に下線を引いている。

※ 表7で取り上げたお話は『はじめての世界名作えほん』(2018、ポプラ社)に掲載されている「日本のむかしばなし」の中から、学生が知っているであろうと予想される20作品選んだ。

④ 昔話に出てくることばの認知について

昔話には、日ごろ聞きなれない言葉が出てくることから、表7で認知度を測った20作品の中に出てくる38個の言葉の認知と、言葉を認知していると答えた学生には、言葉の意味や説明ができるかを尋ねた(表8)。

認知度の低かった言葉は、「御堂」(96%)、「大入道」(92%)、「てんじく」「反」(88%)、「まさかり」「つづら」「貫」(86%)、「行司」(82%)、「鍛冶屋」(80%)であった。認知度の高かった言葉は、「小判」(94%)、「きびだんご」「おじぞうさま」(90%)、「竜宮城」(88%)、「玉手箱」「きりかぶ」(84%)であった。

8割以上が「知らない」と答えた認知度の低い9個の言葉の中で、「てんじく」(『かぐや姫』)以外は、『金太郎』『三枚のおふだ』『舌きりすずめ』『力太郎』にでてくる言葉で、これらの作品の認知度が低かった(表7)ことから、作品を知らないから言葉を知らない学生が多かったと推測できる。8割以上が「知っている」と答えた認知度の高い6個の言葉の中で、「おじぞうさま」がでてくる『かさじぞう』は「お話の内容をなんとなく知っている」の回答者が多かったが、他の5個の言葉がでてくる『浦島太郎』『おむすびころりん』『花咲かじいさん』『桃太郎』は、「お話の内容を知っている」と認知度は高かった。よって、知識としての言葉の認知の有無が根底にはあるが、作品の認知が言葉の認知にある程度は起因していると考えられる。

表8 ことばの理解

(人数)

作品名	ことば	認知		無回答	ことばの意味や説明 (人数)
		○	×		
一寸法師	一寸	26	24	0	1センチ (4)、小さい (4)、3センチ (2) 3センチくらい (2)、長さを表すことば (2) 5センチ (1)、8センチ (1)、短い (1)、昔の数え方 (1) 昔の長さの単位 (1)、長さや大きさのこと (1) 大きさのこと (1)、おちゃわん1杯分 (1)
	うちでの小づち	17	33	0	ふったら大きくなる (4)、ハンマーみたいなもの (2) ふると小さくなったり、大きくなったりする (1)、宝物 (1) 魔法の小づち (1)、金色のやつ (1)、お金がでてくる (1) 願いが叶う (1)、小づちを振ると良いものがでる (1)
浦島太郎	竜宮城	44	6	0	海の中にあるお城 (19) かめが連れて行ってくれるお城 (4) 海の底にあるお城 (3)、海之城 (2)、お城 (2) お姫様がいてすごくきれいな城 (1)、城の名前 (1) 竜が住むお城 (1)、乙姫様がいる海底のお城 (1) 偉い人がいる城 (1)、海の中にある魚たちの城 (1) カメの家、海の中にある (1)、カメのお城 (1)
	玉手箱	42	8	0	宝箱 (12)、箱を開けたらおじいさんになってしまう (6) 開けてはいけない箱 (3)、乙姫から土産にもらった箱 (3) 開けたらけむりがでてくる (2)、浦島太郎がもらった箱 (1) 開けたらけむりがでてきて老ける (1) 良いものがでてくる箱 (1)、お礼の入った箱 (1) 開けてはならない、止まっていた時の分歳をとる (1) カメにもらった宝箱 (1)、おみやげ (1) あけちゃダメ、ふけてしまう (1)、竜宮城でもらった箱 (1) 中に物が入っている箱 (1)、宝物入れ (1)
おむすびころりん	きりかぶ	42	8	0	木を切った時の残ったもの (12) 木を切った後の根元 (8)、木を切ったところ (6) 木を切ったときのかぶ (1)、木を切ったときに残した木 (1) 切ったばかりの木 (1)、切りっぱなしのカブ (1) 木を切った座れるような平らな木 (1) 切った株 (1)、切っているかぶのこと (1) かぶの種類 (1)

かぐや姫	てんじく(国名)	4	44	2	天(1)、天の国(1)、台湾?中国?(1)
	みかど	23	27	0	偉い人(3)、国の偉い人(2)、天皇(1) 王様(1)、帝(1)、かぐや姫のことが好きな人(1) 男の人(1)、結婚相手(1) 宮中(1)、帝国(1)、城(1)
かさじぞう	笠	33	16	1	わらの帽子(6)、頭にかぶるもの(5) 雨や雪のときにかぶる帽子(4) かぶりもの(4)、帽子(3)、葉や草で作った帽子(2) 頭の上ののった帽子(1)
	おじぞうさま	45	5	0	地藏(6)、石でできた像(5)、仏様(4) 石でできたもの(3)、石でつくられた人のようなもの(2) 石で作られた神様(2)、神様(2) 道に置かれている何かしらを祭っているもの(1) 道の端とかにいる神様(1) お墓とかに立てられているもの(1) 銅像みたいな、小さいもの(1) 偉い人の像(1)、仏像(1)、石のおじぞうさん(1) 石でできた人の形の置物(1) お参りをする(1)、道端にいる(1)
	てぬぐい	39	11	0	タオル(6)、布(5)、手でぬう(4) 手編みのマフラーみたいなもの(2) 手をふく布(2)、ハンカチ(2) 手袋(2)、手で編んだ布(1)、絹で作られたタオル(1) 薄手の布(1)、うすい布でできた長方形のもの(1) 手でぬった布(1)、手でぬったオリジナル(1) ぞうきんみたいなもの(1)、手あみ(1) 頭に巻いたりする(1)、手をふくやつ(1)
かちかち山	きね	13	35	2	餅をつくときに使う道具(8) うすとセットでおもちをつつく棒(1)、わら(1)
	しばかり	34	16	0	芝をかる(9)、草を刈る(7)、木を刈る(4) 山に木を取りに行く(2)、雑草を刈る(1) 稲など、しばをかること(1)、木を切って集めること(1) 草を刈る道具(1)、芝を刈るときに使う機械(1)
	火打ち石	31	17	1	石をぶつけて火をおこす、つける(10) 火をつけるための石(5)

					<p>石で火をおこす、つける（４）、火を打つ石（３）</p> <p>石を両手にもってたたくと火花がでる（２）</p> <p>昔の火をつける道具（１）</p> <p>２つ用意してそれをするように打つと火花が出る。厄除けなどに使われる（１）</p> <p>こすったら火がでる石（１）、火で熱した石（１）</p> <p>マッチのようなもの（１）、石で火がつく石（１）</p>
かもと とりごん べえ	猟師	37	13	0	<p>動物を狩る・捕まえる人（23）、けものをとる人（２）</p> <p>動物や鳥を狩る人（１）、イノシシやクマなどを狩る者（１）</p> <p>馬とかを銃で撃つ人（１）、鳥や猪などを狩る人（１）</p> <p>イノシシや動物をつかまえる人（１）、鳥などを撃つ人（１）</p> <p>鳥を撃つ人（１）、獲物を銃で撃つ人（１）</p> <p>生き物をつかまえたり殺したり売ったりして生活をしている（１）</p> <p>うつ人（１）、魚をとる人（１）</p>
	お百姓さん	24	26	0	<p>農家（５）、偉い人（２）、おぼうさん（１）</p> <p>お寺にいる人（１）、商売する人（１）、身分のついた人（１）</p> <p>畑仕事をする人（１）、お金持ちの人（１）</p> <p>刀を持たない人たち（１）、家事などをする女の人（１）</p>
金太郎	行司	8	41	1	<p>相撲の審判（３）</p> <p>お相撲さんの勝敗を決める人（１）</p> <p>すもうの行司さん（１）、偉い人（１）</p>
	まさかり	6	43	1	<p>おの（２）、道具（１）</p>
さるかに 合戦	うす	31	19	0	<p>もちつきで使う（６）、餅つきもちを入れる道具・もの（６）</p> <p>もちをつくときの道具（３）、もちつきの石の器（３）</p> <p>石で何かをするもの（そばとか）（１）</p> <p>おもちをたたくもの（１）、もちを作る器（１）</p> <p>餅つきに使う石のやつ（１）</p> <p>もちをつぶすときに使うもの（１）</p> <p>ものをごりごりけずる道具（１）、きなこを削るもの（１）</p>
	いろり	20	30	0	<p>居間にある火をたくところ（２）、火をたく所（２）</p> <p>台所、ごはんを食べるところ（１）</p> <p>中にたくさんの砂があり、そこに炭を入れて火をたいて料理する（１）</p> <p>昔の家の真ん中にある火をたいて鍋をつるしたりするところ（１）</p>

					<p>昔の火をつけていた所 (1)</p> <p>火をたいておなべを温めたり、暖をとったりする (1)</p> <p>大きなコンロのようなもの (1)、ヒーターみたいなもの (1)</p> <p>火をつけてあたたまる場所 (1)、まんなかの温かいやつ (1)</p> <p>家の中にスミをおいてお茶などをたく (1)</p> <p>火で焼いたりできる場所 (1)</p> <p>おゆをわかしたりするやつ (1)</p> <p>火の周りに置くさく (1)、火 (1)</p>
	水がめ	15	34	1	<p>かめ (3)、 水の入ったつぼ (2)</p> <p>水を入れておく入れ物 (2)、水を入れるかめ (1)</p> <p>水を入れる大きい器 (1)、水をためておく (1)</p> <p>水の中にいるカメ (1)、海に住んでいるかめ (1)</p> <p>水の上を歩いているかめ (1)</p>
三年ねたろう	長者どん	9	39	2	長生きしている人 (4)、年をとっている人 (1)
	ちょうちん	32	15	3	<p>祭りなどで飾っているもの (4)</p> <p>光を灯すもの (3)、明かりを灯す道具 (3)</p> <p>光 (2)、明かり (2)</p> <p>光をともしのに使っていた周りが紙で覆われたもの、ランプのようなもの (2)</p> <p>筒状で中に火を入れてあかりにする (1)</p> <p>昔のランプ (1)、お店の外を照らす (1)</p> <p>暗いところにつけるあかり (1)</p> <p>あかりが入っているもの (1)、ぼんぼりのようなもの (1)</p> <p>今でいう電気のようなもの (1)、光の照らすもの (1)</p> <p>夜に歩く時に昔入れ物に火を入れていた物 (1)</p> <p>ぶらさがっているもの (1)</p>
三枚のおふだ	和尚(おしょう)さん	30	20	0	<p>お寺の人 (9)、お寺の偉い人 (4)、お坊さん (4)</p> <p>お寺のおしょうさん (2)、お寺に勤めている人 (1)</p> <p>葬式などで、南無阿弥陀仏をする人 (1)</p> <p>お寺か神社の人 (1)、神社にいる人 (1)</p> <p>神社の坊主の人 (1)、上司 (1)、お経を読んでくれる人 (1)</p>
	小僧さん	29	20	1	<p>和尚さん、お坊さんの弟子 (7)</p> <p>お寺で修行している人 (2)、お寺の人 (2)</p> <p>和尚さんの見習い (2)、部下 (1)、小さな少年 (1)</p>

					神社の坊主の見習い（１）、こども（１）、こぞう（１） おじぞうさん（１）、小さいおじぞうさん（１）
	大入道（おおにゅうどう）	2	46	2	回答なし
舌きりすずめ	つづら	6	43	1	道具などをしまう箱（１）、箱（１） 草でできたかご（１） 寒い中水がかたまってできたもの（１） 寒くてできるもの（１）、並んでいる（１）
力太郎	百貫目	6	43	1	お寿司の単位（５）、キログラム（１）
	金棒（かなぼう）	37	13	0	金の棒（９）、鬼が持っている棒のこと（６） 鉄の棒（４）、トゲトゲがついた棒（３） 金属の棒（２）、木の棒（１） 鬼が持っているボコボコしてる棒（１） 鬼がもっているゴツゴツの棒（１） 金属バットにチクチクがついたもの（１） 鉄の針がついた棒（１）、太くて固い棒（１） 鉄でできた武器（１）、カチコチな足になる（１）
	鍛冶屋（かじや）さん	9	40	1	武器を修理するところ（２）、剣や刀を作ったり直したりしてくれるところ（２） 刀や包丁などを鉄を打って作る人（１） 金属を扱う、おなべなどを作ったり直したりする（１） 刀などを打っているところ（１）、刀を作るお店（１） 道具を売っている（１）
	御堂（みどう）	1	48	1	回答なし
鶴の恩返し	機織（はたおり）	37	13	0	布をおる道具（９）、織物をする道具（６） 布を織ること（２）、おりもの（２） 糸を何度も折り返す機具（１） 服を作る機械（１）、機械でおるもの（１） 布をつくる（１）、布で作られた服など（１） 編み物をするときの道具（１）、はたをおる機械（１） 糸で布をぬう機会⑩（１）、ミシンのようなもの（１） 着物などを作るときに使う道具（１）、糸で作った服（１）
	一反（たん）	4	44	2	布の長さのこと（１）

花咲かじいさん	小判	47	3	0	<p>お金 (21)、昔のお金 (15)</p> <p>小さいお金 (1)、お金のようなもの (1)</p> <p>お金の代わりのような金のもの (1)</p> <p>大判より少ないお金 (1)、金色の高いお金 (1)</p> <p>金の昔のお金 (1)、とても小さい猫のお金のようなもの (1)</p> <p>ねずみのこぼん (1)</p>
	鍬 (くわ)	30	18	2	<p>畑を耕す道具 (7)、土を耕す道具 (4)</p> <p>畑や田をたがやす時に使う道具 (2)</p> <p>土を掘ったりするときに使う道具 (2)</p> <p>耕すもの (2)、木を切る道具 (2)</p> <p>かまのようなもの (1)</p> <p>草を刈ったりする用の包丁みたいなもの (1)</p> <p>スコップ (1)、道具 (1)、お米をつくるときの道具 (1)</p>
	大判	32	18	0	<p>お金 (9)、昔のお金 (4)</p> <p>小判より大きいもの (3)、大きいお金 (2)</p> <p>昔の大きいお金 (2)、大量のお金のこと (2)</p> <p>小判よりも高いお金 (2)、小判より大きい昔のお金 (1)</p> <p>小判より価値のあるもの (1)</p>
分福茶釜	古道具屋	20	28	2	<p>古い道具を売っているところ (8)、古い道具屋 (3)</p> <p>中古屋 (2)、昔の道具を売るところ (2)</p> <p>リサイクルショップ (1)</p> <p>古くなったものが売っているところ (1)</p>
	茶釜 (ちゃがま)	17	32	1	<p>お茶椀 (4)、お茶をわかすためのもの (2)</p> <p>お茶をわかす釜 (2)、お茶の釜 (1)</p> <p>お茶をするときのティーポット (1)、お湯をわかすやつ (1)</p> <p>茶をいれる釜 (1)、ご飯をたくやつ (1)</p>
桃太郎	手車	22	28	0	<p>手で押す車 (6)、手で押して荷物を運ぶ道具 (2)</p> <p>荷物をのせて移動させるための道具 (1)、手でひくもの (1)</p> <p>荷物を運ぶときに使うもの (1)</p> <p>荷台がある、手で引いていく車のようなもの (1)</p> <p>手で動かす車 (1)、手でまわすやつ (1)</p> <p>ベビーカーのようなもの (1)、人が押す車 (1)</p> <p>手でひいていく車のようなもの (1)</p>

	きびだんご	45	4	1	おだんご (12)、桃太郎が渡すだんご (5)、おもち (5) 食べれるお団子 (2)、丸いお菓子のよなもの (1) いろいろな色のおだんご (1) とうもろこしをつぶしてできただんご (1) きなこもち (1)、きなこもちにしているだんご (1) おばちゃんが作るだんご (1) おじいちゃんおばあちゃんが作ったすごい団子 (1) おばあちゃんとおじいちゃんが桃太郎に渡しただんご (1) だれとでもなかよしになれるだんご (1) 動物たちにあげるおだんご (1)、おやつ (1) <u>きびっただんご</u> ^② (1)、元気になるおだんご (1) 食べると 100 人力 (1)、食べたら強くなる (1)
--	-------	----	---	---	---

- ※ 「ことばの意味や説明」は、回答者の自由記述であるため、言葉や表現はそのまま記載した。
- ※ 重複などの理由から、『ねずみのすもう』『ねずみのよめいり』『わらしべ長者』からの言葉の選定はなかった。
- ※ __① は、「機械」の漢字間違い。
- ※ __② の「きびっただんご」の「きびった」は「結ぶ」の方言。
- ※ 上記に挙げた「ことば」は、表 7 と同様に、『はじめての世界名作えほん』(2018、ポプラ社)に掲載されている「日本のむかしばなし」から選んだ。

⑤ 言葉の理解について

言葉の意味や説明をする(表 8)には、説明する言い回しが難しく、うまく表現できていないものもあるが、全体的に見て大部分の言葉の理解はできることがわかった。

52%が認知している「一寸」を、「長さの単位」「3センチ」と説明できたのは7名であった。「寸」という単位は、「三寸ばかりなる人、いとうつくしうてみたり」と中学校国語の『竹取物語』で学習しているので、全員が認知していると予想していた。同様に、46%が認知している「みかど」は、中学校国語で『竹取物語』、『源氏物語』や『万葉集』を学習しているので、多くが理解していると予想していたが、「天皇」と答えたのは1名だった。また、「百姓」という言葉は中学校の日本史にも出てくるので理解していると予想していたが、「お百姓さん」を認知しているのは48%であった。6名が「農家」「畑仕事をする人」と答え、「偉い人」「おぼうさん」「お金持ちの人」、さらには、「家事などをする女の人」という説明もあった。

「まさかり」は、童謡『きんたろう』の歌い始めにも「まさかりかついで、きんたろう」とあるので、理解していると予想していたが86%も知らなかった。

『力太郎』にでてきた「百貫目」の「貫」は重さの単位であるが、『力太郎』を54%が「作品名を知らない」こと、「貫」という単位を現代では使用しないので認知度が低いのは予想していた。しかし、「知っている」と答えた6名のうち5名が「お寿司の単位」と答えた。

昔話にお寿司が出てくるのか否かを判断する想像力の乏しさ、そしてこれまでに学習したことや童謡などを思い返す力の未熟さが判明した。

4、まとめ

「今」とは違う文化に出会うことは、子どもの世界を広げることになる。昔話に出てくる言葉を子どもが全部理解する必要はないと考える。まず、さまざまな言葉に触れ、知ることが重要であり、言葉の意味は徐々に理解していけばよい。しかし、保育者として昔話を提供する側としては、内容はもちろんのこと、お話の背景や文化を理解していなければ、子どもに伝えることはできない。例えば、認知度の低かった「行司」や認知しているけれどもうまく説明できなかった「おじぞうさま」など、昔話に出てくる言葉は、大人の常識として、保育者を目指す者として、ぜひ習得してほしい。昔話を通して、知ることの楽しさ、喜びを伝え、語り継ぐことの意義を考えて、昔話の世界を感じるための柔軟な想像力、感性を学生自身が磨く努力をしてほしい。今回の調査結果を踏まえて、言葉の言い回し、昔の人の生活や文化などを知り、理解できるように、さらに、学生自身の語彙力や知識が身につくように指導し、活躍できる保育者を養成するために今後も考察を続けていきたい。

謝辞

本研究にご協力くださった学生の皆様に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 稲田浩二・稲田和子編 (2010) 『日本昔話ハンドブック新版』三省堂 p240
- 2) 文部科学省 (2018) 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 p223

参考文献

- (1) 中脇初枝 (2018) 『はじめての世界名作えほん』ポプラ社
- (2) 千葉幹夫 (2019) 『日本昔ばなしのことば絵本』ナツメ社
- (3) 赤津純子 (2008) 「昔話を子どもに伝えることの教育的意義」埼玉学園大学紀要 人間学部篇 第8巻 pp.151-161
- (4) 加藤房江 (2015) 「保育者養成校における保育内容〈言葉〉指導法の実践—より実践的な授業を目指して—」埼玉純真短期大学研究論文集 第8号 pp.51-65
- (5) 矢口裕康 (2012) 「昔話の継承と保育実践」南九州大学人間発達研究 第2巻 pp.107